さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第30号（R5. 10. 6）

来週末はいよいよ文化祭です。現在、河東中はいつも校内のどこかから歌声が聞こえてきます。合唱コンクールに向けて急ピッチで仕上げにかかっている様子がわかります。どのクラスも金賞を目指して強弱をつけたり各パートのバランスを修正したりしています。

技術的なことだけでなく、一人一人が心を込めて歌う、まわりのみんなと気持ちを一つにするなど、メンタルの面でも向上を図っているようです。

“心を込める” いうことは、実は、大変な心のエネルギーを要します。簡単にはできません。心の弱い人間は、心を込めることができません。しかし、「すべてのことに、心を込める」ことは、今も将来も生きていく上で最も大切なことです。歌はもちろん、勉強やスポーツでも大切なことです。そして、心を込めることを繰り返せば、心は知らないうちに強くなり豊かになっていきます。今、みなさんが心を込めて歌うことを習慣づければ、今後の様々な場面でも、将来も大いに役に立ち自分を支えていきます。

また、人と気持ちを合わせて歌うことも大切なことです。人間の集団は、力を合わせることで、1＋1 が 2 ではなくなります。3にも4にも10にもなります。それどころか、人と協力することは足し算ではなく、かけ算になります。30人、40 人の力を合わせれば、百や千の力を発揮します。合唱を通してそのことを実感してほしいと思います。

授業研修の風景

文化祭の準備を進める一方、着実に学力の向上も図られています。先週は、1本の授業研修が行われました。受験体制に入った 9 年生での公開授業です。

二階堂先生（社会）

9年生社会科公民のうち、経済の授業です。悪徳商法の手口を知り、対処法を考え学ぶことで賢い消費者になることを目的にした昨日の授業でした。

二階堂先生の授業の良さは、持ち前の話術とユーモアにありますが、実は授業構成のうまさにあります。小問のチェックテストで基礎用語の定着に始まり、本時の基礎事項の確認をします。そこから課題提示につながり映像資料や文書資料を基に課題解決を個人からグループへと広げていきます。ち密に授業展開を計算してつくられ、授業にストーリーがあります。

第 3 回かとう学園運営協議会が開かれました

3グループに分かれ、熟議する協議会委員のみなさん

10 月 5 日（木）夜、河東西小学校大会議室で、学園運営協議会が開催されました。今回の協議のテーマは、かとう学園の子どもたちと地域や保護者の方が協働してどんな活動ができるのかということでした。3つの部会に分かれ熟議を行いました。教育支援部は、地域や保護者が学校へのボランティアとしてできること。地域貢献部は、児童と生徒が地域のためにできる貢献活動は何か。合同事業部は、地域と学校が協力して作る学園のカリキュラムの在り方。協議後は、グループで話し合った内容が全体で発表されました。今回出されたアイデアが、今後、具体的に活動として実現できるよう目指していきます。学園と河東地域の発展のため、たくさんのアイデアを出していただき、また日頃からご尽力いただき紙面を借りて感謝申し上げます。

10月3日西日本新聞の投書欄「心豊かにするきれいな言葉」
～17歳の高校生の新聞投書より～

10月3日の西日本新聞に17歳の高校生・太田さくらさんの投書が掲載されていました。タイトルは、「心豊かにするきれいな言葉」です。河東中のみなさんに読んでほしいので転載します。

音が好きだ。耳に入ってくる全ての情報は「音」としてくくられるが、その中で私は「人の声」がとても好きだ。教室で騒ぐ声、友人の話す声、店に入った時の店員さんの声も全部。人の声は一番人に伝わりやすく、心を豊かにしてくれる一番きれいなものである。

しかし、伝わりやすいのは良い言葉だけではない。きれいなものとは反対に、一番汚れているのも人の言葉だと思う。人に言葉を浴びせ、それで嫌な気持ちにさせてしまえば、それはいじめになる。

そして、いじめは立派な差別だと思う。人は平等であり、皆が自由であるべきだ。いじめや差別はだめだと言うが、なぜだめなのか、どうすべきなのかは、どの大人に聞いても曖昧（あいまい）で誰も教えてくれない。

だから私は主張したい。言葉に意識を向けることが大切だと。きれいな音色も歌を聞けば心が豊かになるのと同じように、きれいな言葉で心が豊かになるのなら、私は話し続けたい。それが今、私たちにできることであり、私の思うきれいですてきなものだから。

この高校生の感性を素敵に思います。音への感性、特に人の声が好きだということ。日頃何気なく耳にしている教室の騒ぎ声や店員さんの声などに、一番きれいだと思い心を豊かにしてくれると感じている。日常の過ぎていくものに意識を向けて何かを気づくことは、とても大切なことだと思います。いつも見ていることや聞いていることの中に、眼を鋭くし耳を研ぎ澄ませると、今まで気づかなかった美しさや感動に出会えるものです。そのことに気づかせてくれる文章ではないでしょうか。

よい言葉は、気持ちを和ませ心を豊かにします。しかし、そんな言葉もひとたび悪用されると、人を傷つけ痛めつけるものになります。この高校生はこうした言葉の二面性も鋭く指摘しています。悪口やいじめや人を誹謗中傷することはなぜいけないのでしょうか。大人はちゃんと説明してくれないともどかしさもあらわにしています。人からされたくないことは人にすべきでない。人から言われたくないことは人にも言うべきでない。みんなそう教えられてきたはずです。それでも納得のいかないのでしょう。世の中には理屈や理論だけでなく、ダメなものは絶対ダメだということがいくつかあるのではないでしょうか。人としてやってはいけないこと、言ってはいけないことがあります。悪口やいじめや差別、人を殺すことなどは、人としてダメだからダメなんじゃないでしょうか。人の道、絶対的な道徳、善悪の彼岸として人が守るべきことだと思います。いつでもどこでもだれにでも守るべき大切なことだと思います。河東中生には、そのことをしっかり心に刻んでおいてほしいと願っています。

この高校生が最後に書いているように、河東中生には、言葉に意識を向けることを大切にしてほしいですし、きれいな言葉を使うことで心を豊かにしてほしいと思っています。